



学校だより 12月号

泉区緑園五丁目28番

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

TEL (811) 6710

学校長 副島江理子

「心を見つめる」

～12月「人権月間」に寄せて～

11月は「緑園音楽祭」「学校を開く週間」とお忙しい中を多くの保護者、地域の皆様にご参観いただきましてありがとうございました。また、期間中のPTA「一人一役」や親子交流会、講習会の運営等、さまざまな場面でPTA活動にご尽力をいただきました。心より御礼申し上げます。

「緑園音楽祭」を通して、「自信をもって自分を表現することができる」子が増えてきたと感じています。毎日通う学校に、一人ひとりの確かな居場所があることが、すべての基盤となると思っています。確かな居場所とは、子どもたちが互いに受け入れあって初めてできる場所であり、受け入れられている安心感が、自信をもって自分を表現することにつながっていきます。

12月は「人権月間」です。今年度も運営委員会が中心となって、「大きな心をもつ 緑園の子」のローガンのもと、「だれもが安心して生活できる緑園東小学校」をめざして取り組んでいきます。また、今年の人権月間では「けが0プロジェクト」との関連を考えた取組をしていきます。

本校教育活動の中心的な取組である「けが0プロジェクト」では、今年度は「心できずこう（気づこう、築こう）」をテーマに、「自分の気持ち、相手の気持ちを大切に、よりよい人間関係を築き、心穏やかに気持ちよく生活すること」でけんかやけがを減らしていく取組をしています。特に、自分の心をよく見つめて、プラスとマイナスの気持ちに気づき、心の葛藤を経験しながら、最終的には正しい判断をしていくプロセスを大切にしています。

先日、「人権月間」につながる取組として、「心がほっとする取組をしよう」についての集会を行いました。この集会をするに当たって、子どもたちが「どんな場面でどんな言葉を友だちに言ってもらおうと心がほっとするのか」という観点で学校生活を振り返り、①グループ決めの時、②みんなの前で発表する時、③休み時間に遊びに行く時に、困っている友だちの気持ちを考えて、どんな声かけをするとよいのかを委員会の子どもたちが劇でわかりやすく示しました。また、翌週の全校朝会でも、6年生が、12月の生活目標「相手の気持ちを考えよう」について劇で説明しました。

こうした一連の子どもたちの発表や発言から、子どもたちの心の中に、正しい判断をしようという気持ちが育ってきていることを感じました。毎日の学校生活では、まだまだ相手意識をもてずに、いやな思いをさせてしまったり、互いにトラブルになってしまったりする場面もあります。今後も取組を継続することで、自分の心を見つめ、相手の気持ちを考えて、正しい判断をする心の強さを育てていきたいと思えます。

雪が降った日の帰り際に、育てているパンジーの上に積もった雪を慌てて取り除く3年生の姿が見られました。「パンジーは雪に負けずに咲き続ける花だから大丈夫だよ。」と声をかけましたが、どの子も心配そうに帰って行きました。翌朝、朝陽に照らされて元気なパンジーを見て、きっと3年生は喜んだことでしょう。何気ないしぐさに表れた子どもの優しさと雪に負けずに輝くパンジーの強さ。どの子にも育てたい優しさと強さを象徴しているできごとでした。

また、この度、校外委員会の皆様のご尽力くださり、「子どもたちを事故から守る取組」についてのお便りを各ご家庭に発信をしてくださいました。ぜひご一読ください。

12月の「人権月間」を、子どもも大人も「一人ひとりがかけがえのない大切な存在である」ことを意識して過ごしていきたいと思えます。ご家庭でも話題にさせていただけますようよろしくお願い申し上げます。